

総 評



宮内 泰介

北海道森林・山村多面的機能発揮対策地域協議会会長

3つの団体の報告発表を聞いて、本当に感銘を受けました。どのグループにも共通して、2つの大きな特徴があるな、と思いました。ひとつは「面的な広がり」、もうひとつは「質的な広がり」です。

「面的な広がり」という意味では、たとえば、冷水峠森づくりの会のみなさんは、それまで管理していた区画の近隣の森の所有者を捜して、同意を取り付けて、活動エリアを拡大しておられました。また森ボラ協議会は、ただでさえ広いフィールドをお持ちなのに、さらに飛び地を加えて、活動の幅を広げていらっしゃる。大変素晴らしいと思いました。

もうひとつの「質的な広がり」は、じつはこの多面的機能発揮対策交付金事業のキモでもあるわけですが、きょう報告して下さったみなさんの活動にも、それが特徴的に現れていたと思います。冷水峠森づくりの会は、もともと林福(林業+福祉)連携が出発点ですが、それにとどまらず、薪ボイラーの普及といったエネルギー利用や、広葉樹の利活用、地域住民との交流など、質的な広がりを確実に進めていらっしゃいました。

森林ボランティアと聞くと、都市部の住民が山村に出かけていくイメージが頭に浮かびますが、石山六区森林保全の会は、地元の農家の人たちがメンバーとなって、ご自身の所有する森で活動されています。入り口は獣害対策だったとのことですが、そこから森林保全へ、またエネルギーや資材の確保といった「森林の多目的利用」へと進化していますね。木質ボイラーを栽培ハウスの暖房に利用するアイデアには、「そんな使い方でもできるんだな」と感銘を受けました。また、森ボラ協議会は小学校の学習支援や親子森林教室

といった環境教育や、水質・水生昆虫の調査にまで活動が広がっています。実は私は、この森に一度うかがったことがあるのですけれど、とても科学的に、成果を確かめながら着実に進めていらっしゃるのが特徴で、このような広がりを持つ活動こそ、森づくりなんだと思います。

近年、自然保護や生物多様性の分野では、NbSという用語がよく使われます。Nature-based Solutions(自然を活用した社会課題の解決)の略語です。単なる自然保護、単なる生物多様性保全ではなく、その方向性の中で、そのほかのさまざまな社会課題——経済であったり福祉であったり——を同時に解決していく、あるいはそれらを積極的に目標に加えていく流れが強まっているのです。今後は政策にもその考え方が反映されだすだろうと思いますが、考えてみれば、この森林・山村多面的機能発揮対策事業そのものがこのNbSの考え方に基づいています。北海道内で、今後もこのような活動を繰り広げていただけると、すごくおもしろいな、と思います。

こうして3つの団体の報告をお聞きしただけでも、この交付金事業を活用して、いろいろな広がりを持った、また多様性に富んだ活動が行なわれている、ということが、聞いていらっしゃるみなさまにもお分かりいただけたと思います。ほかにも、過去の報告会での発表内容を中心に、多くの事例が協議会ホームページに掲載されていますので、ぜひご覧いただき、お互いに学び合いながら、北海道の森づくり、また森づくりを通じた地域づくりを進めていければと思っています。本日はありがとうございました。